

18. ONGC

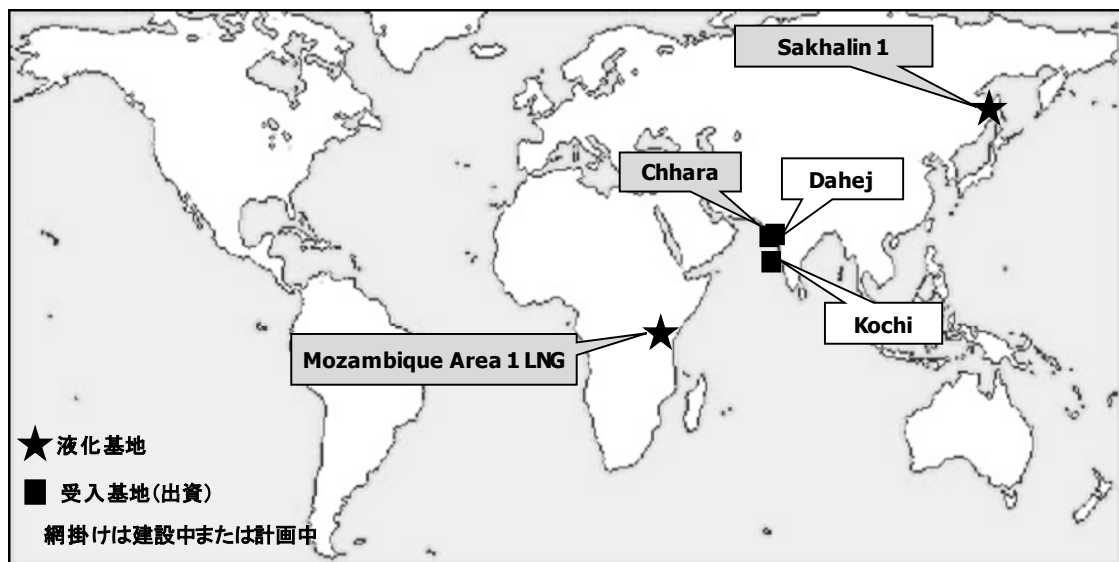
(1) 企業概要

ONGC (Oil and Natural Gas Corporation) はインドを代表する石油・天然ガスの開発会社であり、国内の石油・天然ガス生産の約7割を占めている。2020年3月末時点で、インド大統領(政府)が同社株式の60.409%を保有しているほか、同じくインド政府が株式を保有するIndian Oil Corporation (IndianOil) やGailとの間で、株式を相互保有している。また、Gail、IndianOil、BPCL (Bharat Petroleum Corporation Ltd) などと共同で、LNG受入事業者であるPetronet LNGの株式を保有している。

ONGCは1974年にインド最大の油田であるMumbai High油田を発見しており、その後海外にも事業範囲を広げている。この海外事業は、主として子会社であるONGC Videsh Ltd (OVL) を通じて行われている。OVLは、コロンビア、ミャンマー、ロシア、など、世界17カ国で事業を行っている。

ONGCの2019年3月末時点の原油・ガスの確認埋蔵量は、13.59億toe(インド国内56.8%)であった。また、2019年度のインド国内生産量は、原油2,335万トン(対前年3.6%減)、天然ガス24.9Bcm(対前年3.5%減)となっている。一方、OVLによる海外生産量は原油976万トン(対前年3.4%減)、天然ガス5.23Bcm(対前年10.2%増)であった。

ONGC の LNG 液化・受入基地図



(2) LNG 関連

ONGCは、モザンビークおよびロシアでLNGプロジェクトを計画している。モザンビークではRovuma堆積盆のArea 1鉱区の開発に参画し、同鉱区からのガスを原料とするMozambique Area 1 LNGプロジェクトは2019年6月に最終投資決定(FID)を行った。ロシ

IV. 主要企業別 LNG 事業動向

アでは Sakhalin 1 開発に参画しており、2015 年より Arkutun-Dagi フィールドからのガス生産を開始している。Sakhalin 1 産のガスを Gazprom の Sakhalin 2 へ販売するか、独自の液化設備を建設するかで検討を行っていたが、2019 年 9 月に独自の液化設備建設を決定した。年間 620 万トンの液化設備を建設する予定である。また、2019 年 6 月には Dahej LNG 受入基地の拡張工事が完了した。

石油製品等を主に扱っており、新しい事業分野として天然ガスを推進する Hindustan Petroleum Corporation Limited (HPCL) の株式の 51.11% を保持している。HPCL は 476 の販売店で CNG の販売を開始し、また、Chhara LNG 受入基地の建設を主導している。

ONGC が出資する LNG プロジェクト

国名	プロジェクト名 (Train名)	液化能力 (万トン/年)	生産開始	出資者	主要仕向地
ロシア	Sakhalin 1	620	2023年以降 (計画中)	ExxonMobil30%, Rosneft20%, SODECO30%, ONGC20%	N.A.
モザンビーク	Mozambique Area1 LNG	1,310	2024年 (建設中)	Mozambique LNG 1 (Total 26.5%, MEPMOZ (三井物産 50%, JOGMEC 50%) 20% ENH 15% Bharat PetroResources 10%, ONGC 16%, Oil India 4%, PTTEP 8.5%)	N.A.

ONGC が出資する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力 (万トン/年)	受入開始
インド	Dahej	Petronet LNG (GAIL, ONGC (Oil & Natural Gas Corporation Ltd.), IOC (Indian Oil Corporation Ltd.), BPCL (Bharat Petroleum Corporation Ltd.) 各 12.5%、Public 50%)	1,000	2004年
	<Phase2 Expansion>		500	2016年
	<Phase3 Expansion>		250	2019年
	Kochi	Petronet LNG (GAIL, ONGC (Oil & Natural Gas Corporation Ltd.), IOC (Indian Oil Corporation Ltd.), BPCL (Bharat Petroleum Corporation Ltd.) 各 12.5%、Public 50%)	500	2013年
	Chhara	HPCL Shapoorju Energy	500	2022年 (建設中)

(3) 今後の戦略

2019 年に長期計画 (Energy Strategy 2040) を掲げた。COVID-19 の影響によって事業環境は大きく変化したものの、エネルギー・トランジションが基本思想の一つであり、変更はないとした。一方で、特に上流開発については、投資に際しそのリスク再評価の必要性があるとした。グループの上流生産量を 2040 年に現在の 6,500 万 toe から 1 億 1,000 万 toe にすることとし、海外案件についてはエネルギーの長期安定供給の確保のため、インドと友好的な関係にある国の案件に注力する。

石油・ガス開発以外のビジネスも拡大する。再生可能エネルギーを含む発電能力を 5GW に拡大、都市ガスや LNG 基地運用といった天然ガス事業の拡大、クリーンエネルギーや AI 等テーマで 10 億ドルのベンチャー投資を行う。2025 年までにグループ事業戦略的再構築を達成するためのタイムラインを設定し、特に電力と再生可能エネルギーに注力する別会社設立を検討している。ONGC はこの分野をビジネスの多様化の大きなチャンスとしている。